

救急医療における BNP検査の活用

座長 **吉村 道博** 先生
東京慈恵会医科大学 内科学講座
循環器内科 主任教授

演者 **小武海 公明** 先生
東京慈恵会医科大学附属柏病院
循環器内科 准教授



日時 2015年**4月24日**(金)
18:20~19:20

会場 **大阪国際会議場**
第7会場(12F 1202)
〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

「軽食」をご用意しておりますが、ご参加にはファイアサイドセミナーチケット(無料)が必要です。
なお、先着順の受付となりますので予めご了承ください。

【セミナーチケット配布日時・場所】
4月24日(金) 7:00~17:50
・大阪国際会議場 5F ホワイエ
・リーガロイヤルホテル大阪 3F ロビー
・グランフロント大阪 北館 B2階 ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンター ポスター会場内(ホールB・C)

【共催】

第79回日本循環器学会学術集会／塩野義製薬株式会社／協和メデックス株式会社／東ソー株式会社／株式会社 LSI メディエンス／アボット ジャパン株式会社／積水メディカル株式会社／富士レボロ株式会社

救急医療におけるBNP検査の活用

座長の言葉

東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科 主任教授 **吉村 道博** 先生

1988年に日本の寒川等により発見されたBNP（脳性ナトリウム利尿ペプチド）は、心不全診療において最も信頼出来る血液検査として高く評価され活用されてきた。血中BNP濃度は心臓の異常に対して高い感度と臓器特異性をもって病態応答するが故に心不全診療において必須の検査だが、それ以外にも、健康診断および早期心機能障害の発見、脳卒中の原因が心臓にあるか否かの確認、薬剤の心毒性把握、そして救急医療などにおける心臓の評価への応用の可能性についても検討されている。

特に今回話題とする救急医療においては、日本の救急医療の状況を踏まえた研究が待ち望まれていた。このセミナーでは、その最新知見を提示していただき、これまでのコンセンサス等を鑑みて多くの皆様のご討論をいただきたい。

講演の抄録

東京慈恵会医科大学附属柏病院 循環器内科 准教授 **小武海 公明** 先生

救急医療における心臓の評価の意義は主に二つある。第一に、呼吸器症状を有する救急患者の病因が心臓由来か否かを判断する情報となる。第二に、あらゆる緊急処置を要する患者の心機能を事前に知ることである。

実際に救急患者においては脳と心臓疾患が関与する患者が全患者数のおよそ三分之一を占める。呼吸器症状のように心不全と呼吸器疾患との鑑別が難しい症状を有する患者も多く、心臓の状態を迅速且つ特異的に把握出来る恩恵は大きい。さらに救急に至る主な原因が心臓とは全く異なる疾患の患者さんにおいても、心臓疾患を合併している症例は多く、その評価が迅速かつ簡便に出来ることが極めて重要である。

本セミナーでは、BNPについて諸研究及びこれまで我々が明らかにしてきた事実等を紹介し、本領域での診断が今以上に充実することを期待したい。